

もばら



茂原市マスコットキャラクター
モバリん

自治基本条例

だより

No. 7

自ら考え、自ら参加し、ともにつくりあげていくという「共生」と「共創」のまちづくりを進める上で、市民、行政、議会などの「まちづくりの担い手」が共有する基本的なルールである「自治基本条例」について検討しています。

おじやま します！

Vol.4
緑町「ほほえみの会」



高齢化が進む地域で、住民同士が支え合う新しい仕組みにはどんなものがあるのでしょうか。

今回は緑町わかば会館にお邪魔し、「ほほえみの会」の活動内容についてお話を伺ってまいりました。



緑町「ほほえみの会」
大原亘会長



議論を重ねてつくりあげた「住民同士が支え合う」仕組み

緑町は約40年前に造成された団地であり、高齢世帯が7割を超えています。現在の世帯数は約400世帯ですが、割合ではおよそ1世帯に1人は65歳以上の方がいる計算になっています。

また、80歳以上の方が約70人、独居世帯は約30世帯となっており、高齢化が一段と進むことが予想される地区です。

(1) ニーズに即したきめの細かい支援

緑町地域では、女性たちが主体となり、お弁当づくりなどの高齢者に対する支援を行う「ふれあいの会」が活動をしていました。

電球の交換や庭木の剪定などのいわゆる「男手」を必要とする支援を行うため、自治会から独立した地域として「ほほえみの会」が平成24年6月1日から活動を開始しました。

議論を重ね、数回にわたって町内アンケートを行い、住民の支援要望等をくみとって、きめの細かい支援を継続しています。

○活動実績

- ・登録支援者 39名（男性 28名・女性 11名）
- ・利用会員 44件
（うち単身世帯 15世帯・平均年齢 79.6歳）
- ・支援人数（6ヶ月）
支援者延べ 89名（支援総時間 133時間）

※支援の内容…営繕的支援 26%、家電等の修理 25%、庭木等の剪定 18%、庭の草刈り 20%等
・「もばら和光苑」との連携による買い物送迎 7回・延べ 13名

(2) 活動の内容

町内・市内にも同じような支援組織（地区社協、シルバー人材センター、介護保険制度、行政の支援など）がありますが、行政などの手がなかなか届かないお年寄りの困りごとやすぐに支援を求めたい些細な相談・要望を解決してあげたいという思いから、「ほほえみの会」が発足しました。

入会金は1,000円、項目ごとに1時間あたり200円などの料金を設定するなど、利用しやすい料金体系をとっています（チケット制）。

規約にのっとり、相談を受けたときには内容によってシルバー人材センターや行政の支援の利用を案内しますが、できる限り困りごとを受けようとしています。

また、近隣にあるデイサービス施設の「もばら和光苑」の協力を得て、買い物送迎などの運営も行っています（毎週月曜日、アスモまで送迎。10時～11時40分）。